日付　2026.10.24

作品　『メンタリスト』シーズン４ 21話

担当　山極瞭一朗

採点

	好き	作品	脚本
雨森			
米俵	5	4	5
太郎			
さいの			
しののめ	5	4	5
山極	3	4	4
イルカ	3	4	5
平均	4.0	4.0	4.8

参加者感想/コメント　※分析会前/最中に誰でも自由記入

①テンポのよさはどこから来ているか？

・LGBTQの要素やシリーズ通してのお決まりなど、事件とは関わりのない要素も盛り込んでいるが、無駄がない。
・弁護士団から詰められるところはコメディチック。コメディ要素足すことで、その背景などをすっ飛ばして、物語を前に押し進めることに成功している。

②よくできている点はどこか？ 脚本を勉強するうえでよいとされるのはどの点か？

・ジェーンが何にに気づいているのかというところをうまく隠して、視聴者には気づかれないようにしている。（普段はジェーンと視聴者が一体となって犯人を突き止めていく）
・新鮮さというより、教科書的お手本となるようなうまさ。
・捜査はしているが、説明セリフではなく情報を出している感がある。
→海外は上手くて、日本は下手だという思い込みもある？　役者の上手い下手がそうさせるのか？　海外の役者の上手い下手はわからないから。
→絵で見せているのに、もう一度説明をさせていると、説明されている感が増す。

③他回との違い

・バシバシ犯人に近づいていくジェーンが他回ではある。今回は最初から犯人に気づいていたようだ。
・ジェーンは普段、人の気持ちを考えないタイプ。リズボンとはわかり合っている。特に最後、キャバレーに連れて行くところなど。
・シーズン1の第1話におけるジェーンのセットアップが完璧。
・今回はリスボンを泳がせている。いつもはもっとわかりやすく情報を提示している。

参加者スリーポインツ ※分析会中の修正禁止　　全体分数　41

	PP1			MP			PP2		
	分	%	内容	分	%	内容	分	%	内容
雨森		0%			0%			0%	
米俵	5	12%	捜査開始	20	49%	ジェーン、グレンダの嘘を確かめに行く	30	73%	ジェーン、フィーフィーニクスに会う(確信)
太郎		0%			0%			0%	
さいの		0%			0%			0%	
しののめ	5	12%	聞き込み開始	20	49%	ジェーン、昼のグレンダに会って話を聞く	30	73%	ジェーン、フィフィに会いグレンダに面通しを依頼
山極	13	32%	ジェーン、アーチーが虐待されていた映像を見る	20	49%	ジェーン、グレンダと女性として接する	31	76%	グレンダ、ジェーンから面通しの要請を受ける

ライターズルームの統一見解

	分	%	内容
PP1	**5**	12%	捜査開始
MP	**20**	49%	ジェーンが昼のグレンダに会って話を聴く
PP2	**30**	73%	ジェーンは、フィフィに会い、グレンダに面通しの依頼をする

担当者コメント ※分析会後に担当者が記入。文字数制限なし。

◯分析会中に出た諸々
・冒頭から、アーチーが被害者であるということを伏せているが、ほぼ確定であるという状態で物語が進む。だからこそ、アーチーが被害者であると確定したところがデスというのがやや違和感という話が出た。父もアーチーが死んでいる前提で話している。「被害者判明！」という感じの演出でもなく、そこでシークエンスが切り替わっているというのが理解しづらいという意見も出た。
・ジェーンが関係者と話している時点で、捜査が始まっているという感覚。シリーズを通して見ているからこそ。今回の関係者のセットアップをしている＋捜査をしている。

「カタリスト→キャバレーに入る」
「デス→車の所有者はアーチー」
「PP1→捜査開始」
「Pinch1→嘘発見テスト」
「MP→ジェーン、グレンダの昼の職場にいく」
「PP2→ジェーン、面通しの要請をする」

・このPP2のところで、ジェーンはフィフィに会っている。ここでアーチーとフィフィがイコールだということに確信を得た。
・リグスビー（チョウではありませんでした）がカメラを回収。その中身は、リックが盗みをしていたというもので、リズボンに情報を共有しているので回収済み。

◯分析会を経て感じたこと
・シーズン通して見ている方、シーズン1の1話と今回の話を見ている方、私のように今回の話しか見ていない人と三者三様であった。そうなると、ジェーンに対する解像度も違ってくるわけで、そこからスリーポインツを考えるうえで差異が出た。
・シーズン1の第1話におけるジェーンのセットアップが完璧ということで、その話を見たいと思った。
・嘘発見テストでジェーンが真相に気づきはじめていた、と考えると、そこをR&Gと考えるより、Pinch1と考えるほうが、山の頂上に近づいているという感覚が掴めるなと感じた。そうするとPP1はアーチーの虐待映像を見るタイミングだと遅く、アーチーの父に最初に聴取にいくところかから＝捜査開始としてPP1とするのが納得だと感じた。ジェーンが関係者と話している時点で、捜査は始まっているという、シリーズを通して見ている人の感覚も頷けるものがある。

◯分析表について
・シークエンスの色分けが難しい。特に個人の濃淡の色分けが難しい。そもそもシークエンスで捉えるということが、難しい。最低限全体のシークエンスを捉えるというところがよいかもしれないです、、、
・色が多いとチカチカしてしまう。
・分析した側の解像度は上がる。勉強のためにはいいが、第三者にわたすとなると、パッと見の衝撃度合いが多い。見方のルールが分かっている人にはわかるが、そうでない人には難しい？
・シークエンスの切れ目を点線で表すとか、そういう方がわかりやすいかも?銀色と金色の色分けに意味があるように見える。濃淡においても、濃いシーンに意味があり、薄いシーンは重要でないという風にパッと見見える。ただ、点線ばかりになっても見にくくなるか。